

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2693500056		
法人名	社会福祉法人 楽慈会		
事業所名	グループホーム涌出ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市山城町平尾里屋敷69-4		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;kiyouvoCd=2693500015-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;kiyouvoCd=2693500015-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会
所在地	京都市右京区西院久田町5番地
訪問調査日	令和2年12月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域密着型施設として、地域の方と交流を大切にしている。季節行事を計画し準備の段階から意見交換を行いながら多くの地域ボランティアと共に行事を行ってきた。ターミナル・身体拘束ゼロ推進・認知症ケアなど勉強会を実施している。現在は感染予防のため地域との交流や外出は難しく、家族との面会も制限がありますが、不安なく気持ち穏やかに過ごせるよに事業所内での季節行事を計画している。また天気の良い日にはドライブや散歩・日向ぼっこ等、日々の生活の中でもできることやしたいことを個別に支援している。また9月より新法人となり、ご家族様やご利用者が不安にならないようにしっかりと説明し理解してもらえよう、コミュニケーションを取り信頼関係の構築に努めている。

涌出ぬくもりの里は、京都府の南端木津川市山城町のJR奈良線棚倉駅にほど近い自然豊かな住宅街に位置する1ユニット9名のグループホームで、2階には木津川市で最初に開設された小規模多機能型事業所が併設されています。平成19年5月の開設以来、地域の行事を住民の方々と一緒に企画運営したり、認知症カフェを定期的に開催し多数の参加者を得るなど、常に地域の一員であると意識して連携を大切にこられました。地域から多数のボランティアの方々が事業所の催しに参加して入居者と交流を図り、入居者にとって楽しみのある生活づくりに繋がっています。令和2年9月に運営法人が変わりましたが、湧出ぬくもりの里は以前と同じ職員体制で事業を継続し、職員が運営に関わる意識を高く持ち、法人理念に掲げられている「人と人の信頼関係」を大切にされた姿勢が浸透しています。本人や家族の思いに寄り添ったチームケアの実現に取り組まれている事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業目標を事務所内に掲示し、毎朝、朝礼・申し送り時に唱え共有し理念に添って一人ひとりが意識の向上に努めている。	理念は事業所が目指す方向であり、職員全員で理念や方針の真意を検討して共有している。また、それらを基にした事業目標を、常に意識できるように朝礼で唱和して、本人本位のサービス実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状コロナ禍の中で地域との繋がりが難しい。以前はさまざまな行事で地域の方々と一緒に交流できていた。今は電話などで連絡を取っている。	地域の一員であるという意識を常に持ち、事業所の行事や消防訓練等の際には地域の方を誘い、地域行事の企画運営も積極的に行ってきた。現在は事業所の様子を写真やエピソードで紹介した広報誌を地域に回覧している。	地域から多数のボランティアの方が事業所の催しに参加され、地域に密着した運営を大切にして来られました。今後も新たなカフェの取り組みなど、安心して生活できる街づくりへの貢献を期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は2カ月に一度認知症カフェを開催し認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できる街づくりに取り組んでいた。認知症カフェは現在終了。状況を見て、新たなカフェの取り組みを再検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて実施することもあったが現在は感染予防に努めながら運営推進会議を開催し日頃の様子を報告。事故報告・ひやりはっと報告を行い事故防止に努めている。また、地域での困難ケースの相談も行い、サービス向上に努めている。	家族・職員・行政の担当職員・地域包括支援センター職員に加え、地域長・民生委員・ボランティアの方など地域からの参加を得て開催され、地域への取り組みについても検討されている。毎回活発な協議の場となり、サービス向上に繋がっている。	事故報告・ひやりはっと報告では、予防・対応策について検討され、ホームでの安全な生活に活かされています。書面会議の際にも家族などから意見・質問が寄せられています。今後も多視点からの意見が集まる有効な会議を期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染予防に努めながら、運営推進会議や地域ネットワーク会議などに出席し日々情報交換をして協力体制を築いている。	運営推進会議には行政の担当職員・地域包括支援センター職員の出席があり、市町村とは普段から協力関係を築いている。また、地域の困難ケースについて協議して、介護サービス利用に繋がった事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを掲げ全職員徹底できている。また、身体拘束ゼロの勉強会を開き、情報の共有し身体拘束ゼロのケアを行っている。職員アンケートを行い、職員ストレス対応にも取り組んでいる。	身体拘束ゼロのケアについて、内部研修や会議で情報共有し全職員で徹底している。外出の希望があれば、できる限り行動を制限せず出かけられるように、全職員で見守る体制をとっている。また、行動を抑制する言葉にも職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロに基づき勉強会も行い、朝の、申し送りで目標を掲げ日々の中で虐待防止に努めている。また職員ストレスチェックを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を活用している方はおられないが他の専門職と情報共有するように努めている。権利擁護に関する勉強会を行い、知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項・契約書を説明し了承を得た上で契約し、質問や不明点があれば説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、普段から意見を頂きやすい関係づくりに心掛け、その都度意見を頂けるように努めている。運営推進会議でも随時意見や要望を聞いている。年一回満足度調査も行っている。	入居者や家族の気持ちを大切に捉え、日頃からコミュニケーションを密にとり、面会時には家族に日常の様子を丁寧に伝えることを心掛けている。運営推進会議や満足度調査で挙がった意見や要望については、速やかに協議して運営に反映させている。	運営法人が変わった令和2年9月には、入居者、家族、関係者などへの説明を丁寧に進め、不安にさせない努力をされたと同いました。今後も入居者、家族の真意を汲む誠実な姿勢を期待しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や班長会議の前には事前アンケートを取り、職員の意見を収集し、改善や向上に繋げている。今回法人は譲渡となったが新法人との管理者とも面談時間を設け意見や要望を伝える機会があった。	体系的な意思決定の仕組みが整備され、職員一人ひとりが運営に関係しているという意識を持っている。管理者は職員と共に現場に入り、日常的に声を掛けて信頼関係を築くと共に、意見や提案を聞いて運営に反映させている。	職員が意見や要望を出しやすい雰囲気が浸透し、職員個々の運営に対する意識の高さがありました。今後も職員が運営を意識できるように、活発な意見交換ができる有効な会議などの展開を期待しています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	総括施設長・施設長との面談があり意見や要望を相談できる環境になっている。又半年ごとに自己評価を行い、その結果を含め、面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や終礼でカンファレンスを実施したり相談しながらケアの向上に努めている。職員会議などに勉強を実施している。外国人実習生の受け入れで指導することで職員自身も成長が見られた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流はなかなか出来ないが電話などで相談することはいつでも可能な状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に管理者・ケアマネが本人の考え不安等を聞き安心して頂けるように努めている。情報は職員と共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では特にご家族に困っていること不安や要望をお聞きし、入所後の様子を細目に連絡をとれるように報告し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の状態を知り、しっかりとアセスメント必要とされている支援を見極め、サービスも含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には、掃除や食器洗いなどの家事を一緒に行う。季節の飾りもの作りなどに作業したり話をしたり、昔のことなど教えて頂くなど関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族へのお手紙に一ヶ月の様子や行事など写真を載せてお知らせしている。、写真や面会は感染予防に努め制限されている中で、ご家族様への言葉かけには十分注意し普段の様子などをしっかりお伝えするよにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナの関係で来設頂くことはできないが、以前は着て頂き馴染みが途切れないように努めていた。交流が難しいが色々な話をしっかりお聞きし思い出して頂けるように努めている。	事業所の行事には入居者の家族、友人などを誘い関係継続の支援を行ってきた。コロナ禍で馴染みの人と会う機会が少ないなか、施設内でできることを積極的に検討し、回想法なども取り入れて、季節感があり活気や楽しみを感じられる生活づくりの工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通じて関わって頂いたり利用者お伝えすることで認識して頂くように配慮したり関係性を把握した上で座席を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、施設行事に参加頂けるように支援に努めるように心掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や夢などを聞き取り少しでも希望に添えるように努めている。聞き取りの難しい方については日常生活からの取組みからプランに繋げている。毎月末にはプラン評価実施している。	家族から事前に聞き取った情報を基に、「アセスメントシート」や「ライフサポートシート」を作成している。業務日誌に職員の日々の気付きを記載し、利用者の意向把握に繋げている。年始には入居者個々の今年の意向や夢を掲げて、希望に応える取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴についてご本人より聞き取り、さらにご家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	私の24時間シート、アセスメントシートにて現状把握に努めている。日々の様子については申し送りノートや朝礼時に報告し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者担当やケアマネによる日々の評価をもとに職員会議カンファレンスにて情報交換してより良い計画を作成している。	業務日誌等に職員の気付きを記載し、毎月評価を行い、多職種の視点を交えてカンファレンスを実施しチームでケアプランを作成している。職員が常に意識できるように、ケアプランは確認しやすい場所に常時保管している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に応じ申し送り個別記録(タブレット)に入力している。介護計画の見直しは評価をもとにカンファレンスにて見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者や家族の出来るだけ要望に応えるようにしているが感染予防の観点から難しいこともあるが臨機応変の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアの方に書道教室や傾聴ボランティアにきて頂いていたが現在はコロナで地域との交流は難しい中で職員と共に生活の中で見つけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診を定期的を受けている。また、突発的なことが起こった際も連絡のとれやすい状況である。定期的往診もあり投薬処方をして頂いている。	以前からの主治医をはじめ、希望する医師の受診が可能で、日頃より医師と連絡を密に取り定期的な往診を受けている。併設されている小規模多機能事業所の看護師が、ホーム入居者の健康管理に毎日関わり、医療的ケアの職員研修も実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、午後から看護師が入り様子観察している。緊急時や異変時は、その都度看護師に報告し対応している。主治医との情報交換もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・受診時・退院時のサマリーを通して、情報交換、伝達を行い、スムーズな支援に繋がるような関係に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについても早い時期から何度も家族様と話し合い、主治医・看護師・介護職員と協力しながら取り組んでいる。	週末期ケアの指標となる「重度化指針」を策定し、委員会を構成して看取りケアの実践に向けた内部研修を行ってきた。終末期のあり方については、本人や家族の意向を大切に協議を重ね、医療職との連携により、家族と協力してその方の尊厳を大切にできるケアにチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急講習会を受講している。また、施設にはAEDを設置。急変や事故発生時の流れは常に確認。また簡単な処置は介護職員も理解できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練と災害訓練を定期に実施している。以前は地域の方々のも参加して頂き勉強会を行っていた。必要なものは備蓄している。	避難場所に指定され、地域住民と一緒にビデオ学習会を開催したり、消防署の指導の下、定期的に水害、火災、地震などを想定した訓練を実施している。緊急マニュアルを作成し、災害時には速やかに連絡できる体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で職員同士も尊重し合えるように取り組み、お互い気をつけている。身体拘束ゼロ推進委員会にて人格の尊重や言葉掛けには注意し、お声かけをするよう徹底している。	利用者を尊重しプライバシー保護を徹底するため、職員にアンケートを取り互いに注意し合うと同時に、定期的に研修を実施して積極的に周知している。職員は丁寧な言葉かけを心掛け、押し付けることなく入居者個々のリズムを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を日常の何気ないひと時の中でお聞きし自己決定して頂けるような工夫をしている。直接お聞きするのが難しい場合は普段の生活から組み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースをしっかりと把握しその日の体調面も考慮しながら利用者中心に考えケアできるように職員、一人ひとりが心がけ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後化粧水をつけておられる方もある。トイレ介助後、身だしなみのお手伝いをさせて頂き「いつまでもおしゃれ忘れないで下さい」など声かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や器洗いをお手伝いして頂き、食への興味の向上に努めている。また季節に合わせた食事を提供し食の喜びと楽しみとなるようにしている。	法人が「食」に力を入れ、パンも手作りで季節感や栄養バランスを考慮した食材が毎日事業所に届き、職員が調理している。また、季節ごとに手作りを楽しむ催し、好きなメニューのテイクアウトや外食を楽しむ機会を設定し、美味しく楽しみが持てる食事の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	落ち着いて食事ができるように音楽を流したり食事前に体操をしたりして食事や水分を摂取できるように工夫している。総合チェック表にて食事量・水分量・排泄パターンを把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、自身で行える方には声掛けを介助が必要な方については職員が実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合チェック表から基本となる個々の排泄パターンを把握し声掛けしている。その方のサインを見逃さず誘導をして、なるべくトイレで排泄タイミングを逃さず誘導している。	独自の総合チェック表を作成して、バイタル、排泄、水分摂取、服薬などについて把握し、職員間で情報共有している。排泄パターンを把握し、様子を見ながら尿意のサインを見逃さずトイレ誘導している。個々にあった自立支援により、排泄方法や状態が改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操・散歩を行い身体の動かす機会を設けている。排泄チェック表に記録し排泄パターンを知る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を目安にしているが時間や頻度等ご本人に合わせて入浴して頂いている。拒否があった時はなどは気分転換に散歩後に入浴したり歌が好きな方には一緒に唄いながら入浴して頂く。ゆず湯やしょうぶ湯を楽しんで頂いている。	リフト浴が必要な方は、小規模多機能事業所の浴槽を利用し、拒否のある時はその時々に合わせて入浴を楽しめるように工夫を行い清潔保持に努めている。入浴ができない時は足湯を楽しみ、また、季節の湯で変化を持たせて一人ひとりのリズムに合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調に合わせて居室にて横になって頂いている。入床・起床時間は個々の生活ペースに合わせている。夜、安眠できるようにフロアの環境に心配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は介護職員もすぐに確認できるようにファイリングしている。症状の変化は主治医の往診時に診察して頂き調整している。服薬時は職員が呼称確認をしてから飲んで頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い・盛り付けなどその方のできる事を手伝って頂いている。好きな歌をきいたり壁画作りや脳トレなどをして頂いている。気分に合わせて散歩に出かけて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナで外出は出来ないが以前は日帰り旅行に家族様と一緒にいたり、家や近所の様子を見にいたりしていた。天気の良い日には近隣の散歩やドライブに出かけている。	コロナ禍で外出が困難な時期もあったが、少人数での散歩やドライブで近隣に農作物や季節の花を見に行ったり、隣接している神社を散策するなど工夫をしている。外出できない時も、テラスで日光浴をしていただくなど、日常的に外出や気分転換を楽しめるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれるいるご利用者はいらっしゃらない。以前希望の場所へ出かけた時お土産を購入支援したことはあった。その場合は事前に用意して外出。家族様と確認の上持参して外出する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者で携帯を使用されている方もおられる。必要に応じ電話や絵手紙を出されることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアについては落ち着く場所、席がありソファや窓際などそれぞれに応じ座席など決めている。畑や壁画など季節感などの配慮はできている。	フロアには季節の装飾や作品、年始に掲げた入居者一人ひとりの今年の夢や目標が掲示されている。トイレの扉には目印に花の絵のプレートをかけ、全体の設えも工夫して温かみのある落ち着いた空間になっている。温度湿度は毎日計測して業務日誌に記載し、環境整備には細やかな配慮が見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたりゆっくりとくつろげるスペースを設けている。自室は馴染みの家具等持ってきて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとした生活空間がある。椅子など馴染みの家具をもってこられてあり居室でテレビを見たり日記を書いたり思い思い過ごし方をされている。	居室には馴染みの物を置き、一人ひとりの趣味を生かした生活空間でその方らしく過ごしていただけるように努めている。また、清掃や整理整頓は本人ができることを大切にしながら職員が共に行い、清潔感があり落ち着いて過ごせる家庭的な空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所仕事・掃除などできること本人がしたいことなどできるように配慮している。ハード面ではバリアフリーになっている。トイレの場所もわかりやすく表示している。		